

深く読むための質問力の育成に向けて

田淵靖子

鳥取大学附属中学校 国語科
E-mail: tabuchi-y@tottori-u.ac.jp

TABUCHI Yasuko(Tottori University Junior High School): Toward developing questioning skills for deep reading.

要旨 - 生成 AI の普及によりキーワードを入力すればすぐに答えがわかるような時代がやってきた。しかし、社会構造はより複雑化してきている。これからの時代を生きていく生徒にとって答えのない課題に向き合っていく力がより大切になっていくだろう。本研究では、読書活動を通して個人的な学びと協同的な学びを繰り返すことで質問力を磨いていくことを目的とした。より深い話し合い活動を行うために、どのような問いかけをすれば良いか生徒自身がどのようにやりくりしていくのかを検証していく。

キーワード 主体的・対話的で深い学び, 話し合い, 質問力, ブッククラブ

Abstract — With the spread of generative AI, we have entered an era where you can immediately find the answer by entering a keyword. However, social structures are becoming more complex. The ability to face unanswered problems will become even more important for students living in the future. The purpose of this study was to improve students' questioning skills by repeating individual learning and collaborative learning through reading activities. In order to carry out deeper discussion activities, we will examine how students themselves manage the questions they should ask.

Key words — Active, interactive and deep learning, Discussion, Questioning ability, Book club

1. はじめに

平成 29 年告示の学習指導要領では、「予測困難な時代において、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が求められている。このような時代にあって、主体的に考え、周囲と協力して解決していこうとする力を育成していくことは喫緊の課題であると考えられる。生徒たちを取り巻く環境を見ても、生成 AI の普及により、キーワードを入力するだけで調べたいことを知ることが出来たり、文章を書けたりと、すぐに目の前の課題を解決できるようになっている。だからこそ答えのない課題に対して、自ら課題を設定したり、発見したりする力を養うとともに、答えのない課題に対して粘り強く取り組んでいこうとする態度を養うこ

とが必要である。

2. 研究

2.1. 目的

他者との意見交換を行うことで、一つの作品を多面的・多角的に読み取らせ、より深まりのある話し合いを行うためには、初読で自らが根拠に基づいた意見を持つ必要があるということを感じ、深く読み取ろうとする態度を養い、読解力を高めていくことを目的とする。

2.2. 育成したい資質・能力

他者と協同して課題解決を図り、答えのない問いに対して様々な考えが出てくることの面白さを感じ、わからないながらも思考していこうとする自己調整力を育成することを期待する。そのため、より深い話し合いを行うために、それぞれの話をつなげていこうとする質問力を育成したい。

2.3. 具体的な取り組み

本実践では、アメリカで小学生から成人に至るまで幅広く行われているブッククラブの手法を取り入れた。

ブッククラブとは、特定の本を読み、面白いと思ったことや考えたこと、疑問に思ったことなどについて話し合うことである。読む本のジャンルは限定されておらず、文学作品でも説明的文章でも新聞でも何でも良い。また、話し合う内容も、その本に関することなら何でも良いとされているため、読解が困難な生徒にとっても取り組みやすいと考えた。

ブッククラブでは以下にあげる効果が期待されるとされている。

(1) 楽しい

ブッククラブでは話し合いの焦点が定められていないため、互いの疑問や質問、感じたこと、考えたことなどを共有する形で話し合いが進められるため、本を介した他のメンバーとの「やりとり」や「話し合い」を楽しむことができ、言いたいことが言え、聞きたいことが聞ける場となる。

また、協力して自分たちで意味をつくり出すことの楽しさを味わうことも期待される。これは教師主導の一斉指導や、どこかにありそうな読解の授業では体験することのできない「本当の読みの楽しさ」を一人一人の生徒が自分なりの意味を見出すことにつながる。

さらに、ほかのメンバーに認められ、受け入れられているという実感を持つことによって自己肯定感も高まる。

(2) 読むことが好きになる

すでに読むことが好きな生徒にとっては、さらに好きになり、読む力を磨くチャンス、読むことが好きでない生徒にとっては、話し合いを通じて好きになるチャンスを提示してくれる。また、自分が読み逃したところがあっても、他のメンバーが補ってくれるので確実に読めるようになる。

(3) 刺激や大きな学びがある

ブッククラブでは、複数で読み合うことによって他のメンバーの視点でも本を読むこととなり、読みの広がりや深まりが実現できる。何人かと一緒に読むことによって、他の人の理解や解釈、問いが自分の読むレベルを押し上げたり広げたりするこ

とが可能となる。

(4) 人間関係を築ける

ブッククラブでは常に他のメンバーのことと自分自身のことを学び続けることになる。そのため、人間関係を礼儀正しく、かつ効果的に作り出す方法や、様々な問題を解決する方法、個別に行動しながらも、他の人をサポートし協力し合う方法などを学ぶことができると期待されている。ブッククラブの仕組みは、本を読み、話すことで得られる知的なニーズ(内容理解)と互いに話し合うことで相互に理解を得られる社会的なニーズ(相互理解)の両方を同時に満たす仕組みとなっている。この両者が絡み合うことによって相乗効果を生み出すのである。

ブッククラブでは、本を読むというきわめて個人的な営みによってつくり出される体験と、個々に異なる読み方や解釈をつくり出した何人かが集まって、今度は協力し合って自分たちの意味をつくり出すという二つの異なるレベルの体験が相乗効果を生み、深まりのある読みのサイクルを生み出すことにつながる。ブッククラブによって、より主体的で自立した読み手が育成されることが期待される。

3. 授業の実践

3.1. 学習計画

第1次 より良い話し合いとは

第2次 『ふたりはいっしょ』(アーノルド・ローベル 作, 三木卓 訳/文化出版局)

第1時 文章を読み、感想を交換する。

第2時 話し合うテーマを決めて話し合い、意見と意見を繋げる言葉について考える。

第3次 『星の花が降るころに』(安藤みきえ 作/光村図書 中学校1年教科書)

第1時 文章を読み、グループで考えたいテーマについて話し合う。

第2時 決めたテーマについて話し合い、確認する。

第3時 録画した話し合いを元に、深まりのある質問について考える。

第4次 『辞書に描かれたもの』(澤西祐典 作/東京書籍 中学校2年教科書)

第1時 文章を読み、グループで考えたいテ

ーマについて話し合う。

第2時 テーマを掘り下げる質問とは何かを意識しながら話し合う。

第3時 議論を深めるための質問について考える。

3.2. 活動の様子

第1次では、話し合い活動において困っていることを共有した。

【話し合いで困っていること】

- ・意見を言っただけで終わる。
- ・意見をつなげられなかったり、つなげる人がいなかったりする。
- ・同じ意見が出たらそこで終わってしまう。

上記の困り感を踏まえた上で第2次では『ふたりはいっしょ』という作品を読み、話し合いを行わせた。まず、次のことを条件として初読の感想を共有させた。①時間いっぱい語ること、②楽しく話すこと、③全員参加すること。『ふたりはいっしょ』は、小学校の教科書に掲載されていた作品でもあったため、比較的楽しんで話し合うことができたが、一度読んだことのある作品だからこそ、第1時であげた課題に直面するグループも多数あった。

【生徒の感想】

- ・途中で話が尽きてしまい、他の人の話に流れてしまった。
- ・時間が余ってしまった。

ここから、どうすればより良い話し合いになるのかを考えたところ、次のような意見があがった。

【より良い話し合いに大切なこと】

- ・自分の意見を持つことはもちろん、なぜその意見を持ったのか理由を説明することが大切だと思う。
- ・みんなが意見を出せるような雰囲気をつくらせたり、意見がかぶってもアドリブで話したり、一つの意見からどんどんつなげていって、話し合いがすぐに終わらないようにすることが大切。
- ・自分と相手の意見の共通点と相違点を意識しながら、主張、根拠、理由付けをして話し合う。
- ・話し合いを簡単に終わらせるのではなく、一つ一つの意見に対して「なぜこうなる？」という疑問を持ち、様々な考えに耳を傾けることにより自分の考えも深まり、より良い話し合いになる。

し合うテーマを設定し、再度話し合いを行ったところ、次のような感想があがった。

【良かった点】

- ・テーマを意識しながら話し合うことが出来た。
- ・全員が意見を言うことが出来た。
- ・自分の意見をはっきり言えたので楽しかった！
- ・全然気づけなかったかえるくんの良さに気づけた。
- ・かえるくんについて話していたが、時間が余ったため、がまくんについても話し合うことが出来た。
- ・相手が意見を言った後に「なるほど。」と相づちを打ちながら聴いたので安心した空気をつくることができた。

【改善点】

- ・話が続かなかったので、テーマを増やしたほうが良かった。
- ・時間が余った。
- ・話し合いが盛り上がりすぎて、テーマからそれてしまった。

全員が意見を言うことで、話し合いを楽しみ安心して意見を伝えられたり、読みが深まったりした生徒が多かった。しかし、「時間が余った」といった生徒は全体の6割ほどあった。「話し合いが盛り上がりすぎてテーマからそれてしまった」という意見も多数あったが、より広がりのある読書につながられており、ブッククラブがねらいとする活動に達することが出来ている。

第3次では、『星の花が降る頃に』という作品を読んだ。この作品は他社の教科書で1年次に扱われているものである。第2次では第1時で話し合うためのテーマ設定について話し合わせ、第2時でテーマについて話し合わせた。第2時の話し合いを録音し、第3時でモデルとなるグループの録音を聞き、どのような発言が課題を深める発言なのかを考えさせたところ、次のような意見があがった。

上記のことを意識するとともに、読みが深くなる

【良い発言】

- ・なぜ～？→理由
- ・どういうこと？
- ・〇〇と〇〇って違うよね？→確認
- ・それ、あるよね？→承認
- ・～みたいな感じじゃない？→同意
- ・どっち？→選択、提案

問いかけとはどのようなものかを考えながら、再度自分達の設定したテーマについての話し合いを行うこととした。

第3時終了後の生徒の感想を次にあげる。

【生徒の感想】

- ・前は意見がかぶったら言わないという感じだったけど、今回は意見がかぶっていてもしっかり自分の言い回しで伝えることができた。
- ・最後に「？」を付けることで、「これこうだよ。」みたいな感じで無限ループできたのが良かった。
- ・誰かが出した意見に対して1つは疑問を持つようにした。
- ・中身は薄い話し合いだったかもしれないけど、「なんで?」「～じゃない?」という言葉が増えた。
- ・共感を求める質問、疑問を投げかける質問など、いろいろなパターンの質問を使って話し合いを深められた。
- ・この前は思ったことをぼんぼん端的に言うだけで相手が共感の意見を言ってくれたり、「それは違うんじゃない?」と反論してくれたりしていたので話し合いが盛り上がったけれど、今日は意見をぼんぼん出さずにまとめながら言うことを意識したので、なぜかわからないけれどあまり盛り上がりませんでした。ぼんぼん意見を出す話し合いとまとめて言う話し合いにはメリット、デメリットどちらもあることを知れた。
- ・疑問を問われたときに答えにくかったの、自分の中で意見をまとめられていないと気づいた。一人一人の意見がまとまりすぎていたため、疑問が少なく、「～と言う風にも読み取れるよね。」みたいな発言が多かった。だから、疑問を投げかけてからの意見発表でも良いかと思った。

第4次では、教科書の作品『辞書に描かれたもの』を読んだ。長い文章だったが、ほとんどの生徒が初読の感想をA4の紙いっぱいを書くことができるようになっていた。

4. 結果と考察

ブッククラブの手法を用いての実践では、多読の必要があったため、生徒自身も繰り返し読書をする中で話し合える話題を見つけようと集中して読書に取り組めるようになっていた。話し合い活

動でも、言いたいことだけを言って終わらないように、話題と話題をつなげる言葉や時間いっぱい話し合えるような話題を意識しながら話し合いに臨んでいた。「沈黙が続いてしまう」と答えていた生徒も、どうしたら時間いっぱい話し合えるのか試行錯誤しながら取り組むことが出来たように感じる。しかし、「より良い話し合い」ということを提示しての授業だったため、生徒たちも意識しながら話し合い活動しており、本実践終了後の授業で本実践により培われた力が生かされるのか不安も感じた。ただ、どのようにすれば時間いっぱい話し合うことが出来るのか意識しながら話し合いで意見が出なかった際に、生徒の中から「パス!」「しゃあ、パス1回な」という声があがったのは面白かった。生徒たち自身でルールを設定していたところに「やりくり」を感じた。

5. まとめと今後の課題

本研究により、話し合い活動で議論を深めるためには以下の視点が大切であるという気づきが生徒たちの中からあがった。

- ① 自分の意見を持つこと
- ② 自分の意見と他者の意見を比較すること
- ③ 「なぜ?」「どうして?」「つまり…」、「具体的に言うと…」など、理由や根拠を質問したりつなげたりすることが大切であること

しかし、これらは初読で自分の意見がまとまっていたり、他者の話し合いから良い発言に気づける力が備わっていたりするからこそその結果であり、読書が苦手な生徒にとっては困難であると考えられる。今回の研究は生徒自身が持っている素養によるところが大きく、生徒自身に「やりくり」を促すにはどのような授業の工夫が必要なのかさらに考えていく必要があると感じた。

参考・引用文献

- 文部科学省(2018)中学校学習指導要領解説 国語編. 東洋館出版社
- 吉田新一郎(2013)“読書がさらに楽しくなるブッククラブ 読書会より面白く、人とつながる学びの深さ”新評論